

早稲田大学 法学部 英語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	大問6題は昨年と同じ。量は昨年よりやや増え、レベルも全体的に難化したと思われる。特に と は受験生泣かせと言えるだろう。また、 の会話文の英作文に、語指定の条件が加わったのが特徴か。昔、法学部で毎年出題されていた大問を想起させる。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	英文読解問題	量がやや増え、レベルは昨年並み。(2)の形式が変わったが、気づかない程度の変更。発音・アクセントの合体型も出題された。法学部に定着した感がある。当然、 が圧倒的に大変なのだが、この問題も時間との勝負であろう。	やや難
	英文読解問題	量が大幅に増え、レベルは昨年以上に難しかった。設問形式や選択肢の数はほぼ昨年と同じだが、問題文が異常に長いので、該当箇所を探すのが大変！また、選択肢も非常に紛らわしいので、これまた受験生泣かせである。当然ながら、時間と根気が勝負の大問だ。	難
	正誤問題	昨年の がここに移動して来たのだが、昨年の より難しくなった。確信を持って答えられた問題はないのではないかと思えるほど、受験生には酷な問題のオンパレード。どんな難問でもあきらめない忍耐力を要求しているのかもしれない。	難
	空所補充	の問題がこちらに移動。レベルは昨年並みだろう。run を含む熟語がポイントだが、やや難しい熟語の連続(特に(2)と(5)が難問)なので、迷ってしまいそうである。昨年同様選択肢は一度しか使えなかった。	標準
	和文英訳	量、レベルとも昨年並みだが、単語が指定され、しかも書かれている通りに作文していく形に変わった。2で差がつくと思われる。	易
	英文論述	昨年と同じ形式の問題。今回も身近な社会問題がテーマ。ただ、法学部に直結するテーマではなかった。a paragraph、at least one appropriate は変わらず。	標準